⑥　授業時間・場所の確保(18 校)

代表例：視聴覚機器や部屋の事情でグループでテーブルを囲み・・・・という形態がとれなかった/ 1 時間しか時間がとれなかったこと/各クラス別で時間を確保することが難しく（３クラス×２）主要講義は学年全体で（１１４名）行い、その後、各クラスでグループワークを行った。主要講義の内容はある程度は伝わったと思うが、やはり、全体では生徒が発言しにくかったようだ/暗幕のある教室の確保・・・大規模校なので特別教室の取り合いになることもある/教具や設備等の関係で調整が大変だった/時間の確保が難しい/WYSH の実施が２学期に集中（２学期以降しかできないから）するので、時間の確保が難しい

⑦　機器操作が難しい(4校)

代表例：パワーポイントや PC を使用する際、事前の準備に時間がかかった/パワーポイントの作成に関して技術的に困難であった/メッセージビデオを作るのが大変難しいと思った/思い出のアルバムが上手に作れなく、苦戦した

⑧　生徒の意識の差(14 校)

代表例：消極的な生徒が積極的な生徒に気後れしてしまい、さらに受身になってしまいがちになる。興味先行型の生徒への対応/性に関する知識理解および実際に個人差があること/性的に活発な生徒とそうでない生徒の差が激しい/進んでいる生徒がみんなから少し浮いたような雰囲気がある。(全体が幼いように思える)/興味関心発達段階の個人差など、いろいろな生徒の状態を把握して、一斉に授業を行わなければならないこと/生徒の性行動の速度と職員の対応が上手くいかない。

⑨　保護者の意識(2 校)

代表例：保護者の中には「性教育＝寝た子を起こしている」と感じている人もいて、性教育に対する捉え方や必要性についての考えに差がある/多くの保護者に関心を持ってもらい、連携を図っていくこと

⑩　他教科との連携(6 校)

代表例：保健教科の授業をどれぐらいすすめておいたらよいか/保健の授業はほとんどされていない/保健学習と保健指導の棲み分けや関連が明確でない/全教科での役割がどのようになっているのかわらない/盲学校は教科学習を行っていますが、体育は学年ごとではなく小学生～高校生が全員で行っているため”保健体育”の授業を学年単位で実施することが難しいです

⑪　他学年との連携(6 校)

代表例：１，２年生への教育の展開、構想が本校では確立できておらず、不安なのが正直なところです/小・中の連携がない（高校とはこの２年間交流があった）/中 1、中２の性教育の内容の授業改善/これまで（小学校から）どれぐらい性教育されてきているのか分からない

⑫　教材作成が難しい(7校)

代表例：VTR の作成が、イメージが他の教員はつかめず、難しい/子供にきちんと伝えたいと思うと、教材作り資料集めが大変/指導者が安心して指導が行える指導資料や教材の工夫。生徒の心を感動させ、心情に訴えるものがほしいが、なかなか見つけにくい。作る

には時間が足りない/指導資料は新しく生徒の実態にあったものを作成していかなければならない。どのような内容が生徒に受け入れられるのか難しい点である

図 27.WYSH 教育に対する感想（中学校：71 校）良かった点

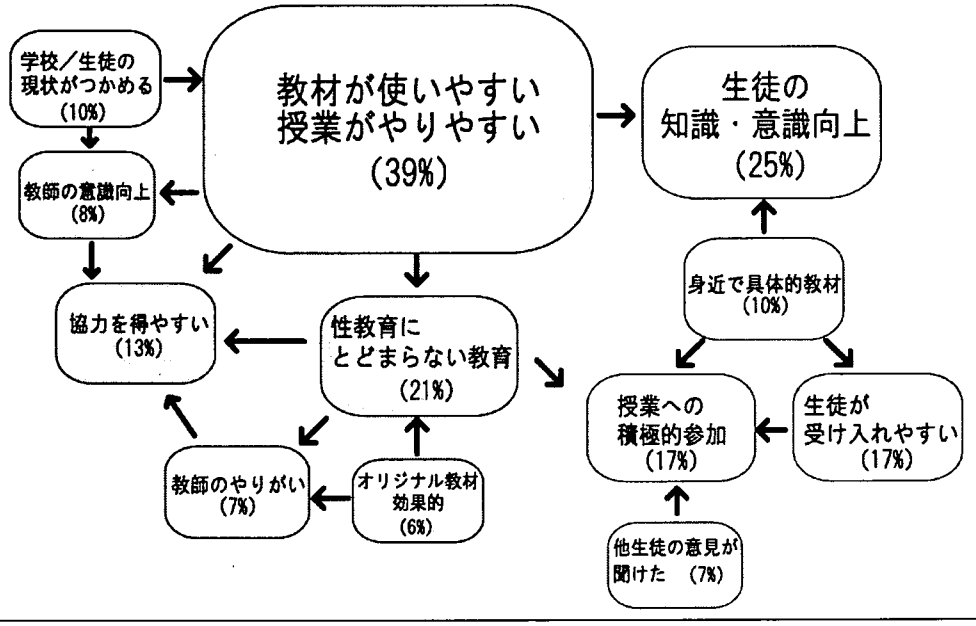
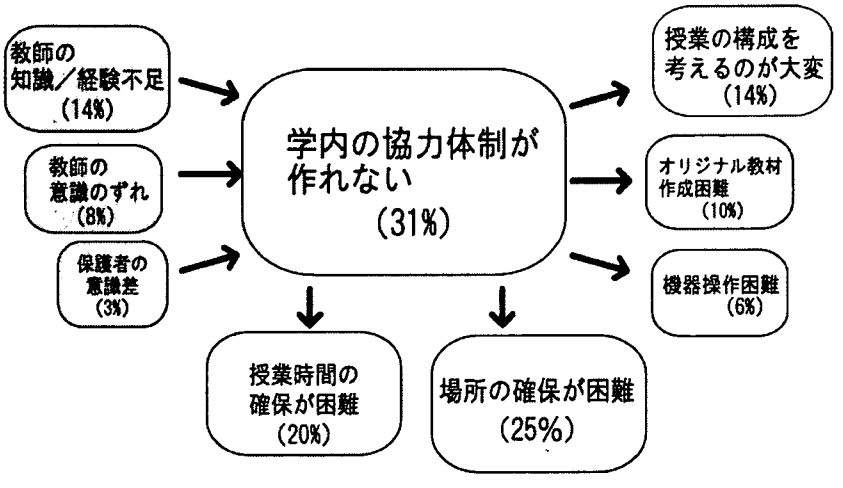


図 28.WYSH 教育に対する感想（中学校：71 校）困った点



◆高校2年生に対するWYSH教育実施のコメント

2007年度のWYSHプロジェクトへの参加高校は44校で、授業実施状況に関するアンケートの回答率は100%であった。

1．良かった点

1－1　教師にとって良かった点

① 教材の使いやすさ・授業内容の教えやすさ（21校）

代表例:パワーポイントが非常に分かりやすくまとめられていることに、参加者が納得し、誰でもできるという思いを持ったこと/プログラムとして教材ができているので、どの教員でも一定以上のレベルでスムーズに授業を行うことができた/生徒の実情を把握した上で、現状に即した授業や指導を展開することができる/生徒たちの顔を見ながら授業ができるので、クラス毎に少しずつ話を変えた/パワーポイントやビデオなど、教材が充実していたので、授業者に対する説明もしやすく、また、授業者も生徒に伝えやすい（生徒の反応が良い）と好評だった/同じ教材を使用して取り組むことは、共通意識を持たせよかった

② 他教員・学校の協力体制が作れた（13校）

代表例：校内にいろんな形で協力してくれる人ができてきて、ネットワークが広がったこと/授業を担当してくれた先生方を通して、他の先生が興味を持ってくれた/保健部員と担任・副担も入り、授業をすることができた/生徒・教師共に年間を通して考え続けさせられる/他の教員と連携をとるため、接する機会が増えお互いの理解が深まる/教科保健との連携、管理職・学年全体の協力も得られ、より学校全体としてWYSHへの取り組みが可能となった

③ 教師にとってやりがいが生まれる（12校）

代表例：時間にとらわれず、続編を希望してくれた生徒がいたのは嬉しかった/
本校生徒にグループワークは無理だというのが”大方の意見”だったが、”話し合いまではいたらなくとも自分の意見を紙に書き、発表することができる”ことが分かりよかった/最初に思っていたよりかなりいい雰囲気の授業で満足です/良い感想が沢山あったので、こちらのほうが励まされる思いがする。やってよかった/感想文から、メッセージがしっかり伝わっていると感じたこと。生徒の純粋な部分を見ることができたこと/苦労して作ったメッセージビデオで伝えたい思いが伝えられたこと/終了後、「聞いてよかった」という声を沢山きけたこと

④ 生徒との距離感接近（10校）

代表例：教師からのメッセージが上手く伝わり、信頼関係を築くよい機会であった/教職員提供の写真で作成したメッセージスライドへの反響が非常に大きく、その場が盛り上がって2部のグループワークへのつなぎとして、担任の先生と生徒の距離をぐっと近づけることに成功した/ゲームをすることによって、生徒とのコミュニケーションが深まった/実施後生徒たちと踏み込んだ話ができるようになったこと

⑤ 教師の意識・知識向上（8校）

代表例：企画力や連絡調整力など自信の資質向上につながった/自分自身の中のイメージとやる気が高まった/見せ方・学ばせ方等、生徒の反応もよく自分の勉強にもなった/クラス担任を中心とした教員が担当することが出来、校外の講師に依頼するのではなく、教員

自体が主体的に関わることができた

⑥ 学校の現状が把握できる（5校）

代表例：研修会で本校のデータや資料・講演をきき、データの結果に基づき授業内容を考えることが出来た/事前・事後のアンケートにより、授業の成果を確認できる。また、足りなかった点も見えて、今後の指導に生かせる/事前アンケートの結果から、本校生徒の発達段階・行動などが明確にされていたため、指導案を作成しやすかった/事前のアンケートで生徒の実態がわかり、それに基づいた授業ができ、生徒にも職員にも説得力がある

⑦ 性教育にとどまらぬよい効果（2校）

代表例：知識の伝達に終わらず、クラス内の友人関係を深める良い機会になり、担任の先生からもよい評価をいただけた/知識をただ得るのではなく、普段の会話でしないテーマ内容で友達と会話することは生徒の心に新しい発見、気づきとなり深い人間交流へとつながっていくものだと感じました

1－2　生徒にとって良かった点

① 生徒にとって身近で具体的なデータの教材でわかりやすい（13校）

代表例：県の数値がはっきり出ていたので、生徒がわかりやすく身近に感じていた/自分の住む地域の現状を知ることで、性の問題をより身近なものと捉えていた/主要講義のパワーポイント、ビデオにより、生徒に正しい知識が身についた/身近な情報をパワーポイントで分かりやすく伝えられ、生徒も実感したようである

② 生徒が受けいれやすい授業構成（13校）

代表例：普通の授業ではほとんど聞いていない子供たちも集中し、真剣に授業を受けていました/パワーポイントやビデオで段階的に授業を進めるので、生徒は飽きることなく分かりやすく聞いているようである/ビデオやクイズもあって内容も濃いので飽きない45分でした/学校の教員が性に関するデータだけではなく心の方も話をしたのでいつもと違うということで話を新鮮に聴いてくれた/普段は見ないような真剣な顔で話を聞く生徒も見られた/授業毎にWYSHのメッセージ『ゆっくりていねいな人間関係』を伝えたので、生徒により深くメッセージが伝わったと思う

③ 生徒が積極的に参加できる（12校）

代表例：グループワークの雰囲気を見ているととてもよく、特に女の子は積極的に参加していた/クイズ形式で授業を進めることができるパワーポイントで、生徒たちも考えながら参加していた/発言やリアクションが活発にでて、自分の考えを言ってくれる生徒もいた/普段なかなか性について考えたり、話し合ったりすることが少ないだろうと思われる生徒がグループワークで自分の考えを発表したり、他者の考えを聞くことができてよかったという感想を多くの生徒が言っていて良かった/反応が大きく、積極的に学ぼうという姿勢も感じられた/関心のなかった生徒が1回目より2回目に意欲が出てきたのか沢山質問をしてくれた

④ 意識・知識の向上(12 校)

代表例：エイズへの意識が高まり、知識が徐々に高まってきた/女子の授業では特に活発なグループワークが行われ、自分のからだや周囲の人を大切にしなければならないという意識が強まったと思われる/「自分の将来を考えたことがない」という生徒が多く、考えるよい機会になったと思う/このような問題を身近に感じることが出来たこと

④ 他生徒の意見が聞けた(8 校)

代表例：生徒より、「グループワークをしたら友達の意見を知ることが出来てよかった」と意見がありました/グループワークで普段話せない性に関する友人の考えが聞けてよかったようである/グループワークでお互いの意見が聞けてよかったと生徒が感想で述べている（多数）/他の高校生の考えや意見を知らせることで、ピアプレッシャーから開放された生徒が見られた

2. 困った点

① 授業時間の確保(25 校)

代表例：エイズ教育のための時間を確保することが現実的に難しくなっている/ LHR の時間を確保することがとても難しい/授業時間の確保や進学指導に時間がとられ、LHR や総合の時間が使えません/学校内の事情で、連続した授業時間の確保が難しかったため、授業日設定に工夫を要した

② 授業の構成(21 校)

代表例：時間配分が難しく、最初ゆっくり進めて最後のほうが雑になってしまった/導入から展開まで（授業案の）焦点を合わせにくかった/本校は性意識がさほど高くはないので、実施の場合にはグループワークのテーマなどに工夫が必要だと考えています/生徒の到達度に見合ったグループワークのテーマを設定することが難しかった/クラスの実態によって、内容の変更が必要であった

③ 生徒の意識・知識・経験の差(15 校)

代表例：性的に活発な生徒と、そうでない生徒の差が非常に激しい/個々の発達段階が異なる/生徒たちの知識の差が大きく、焦点が絞りきれない/他人事だと思っている生徒が多いこと/性の問題を軽く見ている傾向がある

④ 学校の体制作り、他教師の理解(13 校)

代表例：保健体育以外の先生方は性教育に対して消極的で、ひとごとである/性教育に教職員みんなで取り組もうという意識が希薄/ WYSH 教育を通じ、生徒が性に関する悩み事等を気軽に相談できる校内体制作り/必要性を理解されるように説明するのが困難であった/性教育の授業プログラムの実施を、年間を通した教育活動あるいは生徒指導や教科教育も含めた学校全体の取り組みにどのようにつなげていくかという課題

⑤ 個別に配慮が必要な生徒への対応(12 校)

代表例：特殊な環境におかれている家族がほとんどなので、細心の心配りをして取り組まなくてはいけないことです/性的な言動に過敏となっている生徒も本校では多く、その子達への配慮が必要/おとなしい男子グループは恥ずかしそうでした/女性の置かれている社会的、身体的状況に配慮できない軽はずみな言動が見られた

⑥ **準備時間の確保(10 校)**

代表例：授業時間の確保の問題や教員の研修、意見交換など、性教育を準備する時間の確保の問題/2年団に私自身が所属していないので計画的に推進しにくかった/他の学校行事と並行しての取り組みで時間不足、準備不足もあり担当者の苦労があった

⑦ **日頃からの人間関係作り・環境作り(6 校)**

代表例：誤った情報がかなり出回っていて、授業中も答えにくい質問が突発的にでてくることがある/学校の情報より友人関係の情報を信じる傾向にあり、繰り返しての情報提供と信頼関係をとりもどさなければならないと思う/グループワークで学習することに慣れていない生徒、クラスもあり、グループやクラスで少し差が出ていた

⑧ **予算の確保、次年度の継続(5 校)**

代表例：来年も継続したいが、心配である/管理職の理解不足のため、研修費がまったくでません/今年は担任の中から「やってもいい」と言う人がいたので、実施できたが、学年団がかわるとどうなるかわからない

⑨ **保護者の意識(4 校)**

代表例：保護者の理解・協力が得られていない。消極的である/予防教育の効果をあげていくためには、家庭の協力と理解も必要であり、保護者への啓発活動が欠かせない/父兄や地域との連携の持ち方

⑩ **設備・機器操作(4 校)**

代表例：プロジェクターの扱いになれていない先生には負担になってしまった/メッセージビデオ（スライドショー）を作るのが大変だった/1回目のとき、ビデオがなぜか映らなくて休憩を入れて対応した

⑪ **他学年との連携(4 校)**

代表例：2 年生で予防教育を行うより前に性に関する危険にさらされる可能性が大きい/WYSH 教育を 2 年生で実施するが、1.3 年生への教育はどうすればいいか（事前・事後教育）/高 1、高 3 でどのような WYSH 教育をするか

⑫ **教師間の意識のずれ(2 校)**

代表例：職員の中に意識のずれがある/教師間の性に関する意識のずれを感じた

⑬ **性教育に対する心理的抵抗感(2 校)**

代表例：心理的抵抗感がある教師へのサポートが必要であった/性に関する知識の方への返答などを考えると自信がないという答えが多かった

図 29.WYSH 教育に対する感想（高等学校：44 校）良かった点

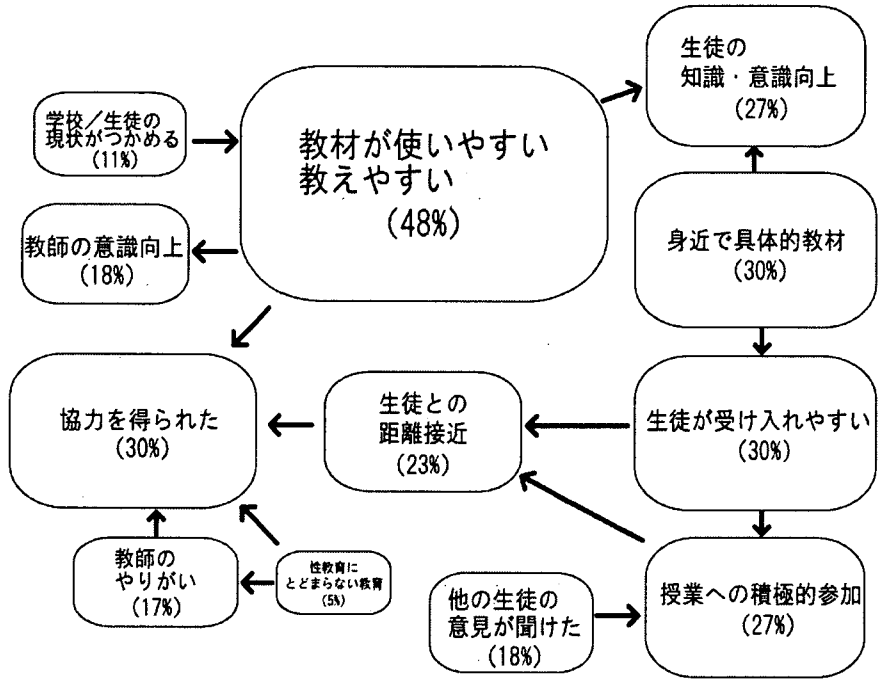
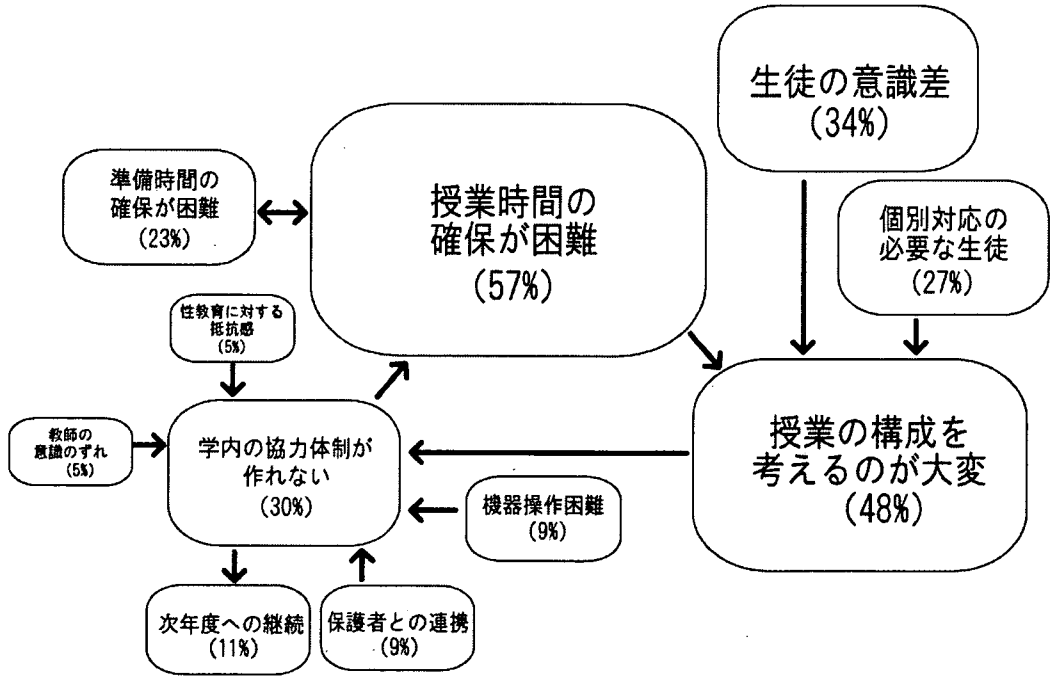


図 30.WYSH 教育に対する感想（高等学校：44 校）困った点



2007年度全国の中学生/高校生に対するWYSHプロジェクトの評価のまとめ

今回のプロジェクトによって、以下のような成績が得られた。
(非教育群[WYSH教育を実施していない群]と教育群[WYSH教育を実施した群]との比較)
＊注：この場合、教育群とはWYSH教育の全プログラムを完全に実施した学校群

【中学3年生】

① **知識**：HIV/STI 関連知識は非教育群では男女とも約 10%の増加にとどまったが、教育群では男女とも***知識が大幅に（約50%）上昇した。***

② **性意識**：[中学生が性関係を持つことへの容認意識]は、非教育群ではわずかな変化しかなかったが、教育群では***大幅な抑制効果（容認意識の10%以上の減少）が観察された。さらに、「高校生になってから性関係をもつことへの容認意識」も、非教育群では、わずかな変化にとどまったが、教育群では大幅な抑制効果（容認意識の20%前後の減少）が示された。***

③ **リスク認知**：「将来の自分の STI 感染リスク認知」は、非教育群では男女とも数%増加であったが、教育群では男女とも 20-30%程度の***リスク認知の顕著な上昇が見られた。***

④ **予防行動**：[予防行動（最後のコンドーム使用率）]は、非教育群ではあまり変化がないが、本プロジェクト実施群では、男子では10%を超える増加が見られたが、女子では、逆に減少していた（女子の場合は相手の年齢やもともと使用率が高かった影響もあるので解釈には注意を要する)。

⑤ **性経験率**：図中には示していないが、本プロジェクトによって性行動が活発化することはなかった。

【高校2年生】

① **知識**：HIV/STI 関連知識は非教育群では男女とも 10%前後の増加であったが、教育群では男女とも***知識が大幅に（30%前後）上昇した。***

② **性意識**：[高校生が性関係を持つことへの意識]は、男女とも性関係の容認意識が約 3%減少し、わずかながら***抑制効果が観察された。***

③ **リスク認知**：「将来の自分の STI 感染リスク認知」は、非教育群ではほとんど変化がなかったが、教育群では***リスク認知が大幅に（10%前後）上昇し、特に女子では約20%増加した。***

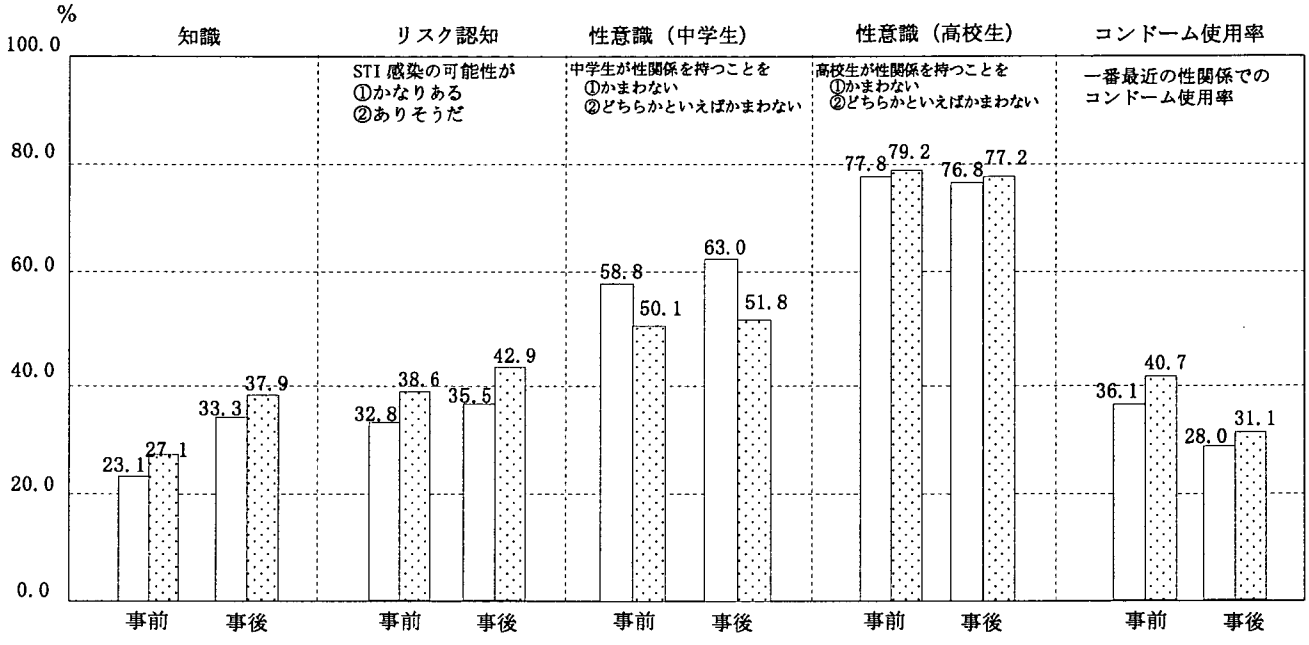
④ **予防行動**：[予防行動（最後のコンドーム使用率）]は、非教育群では減少した（男子約35%、女子約 4%）が、本プロジェクト実施群では、女子では非教育群と同じく減少したが、男子では非教育群のようなコンドーム使用率の大幅減少は見られずわずかに上昇した（約 1%）（減少が抑えられた)。

⑤ **性経験率**：図中には示していないが、本プロジェクトによって性行動が活発化することはなかった。

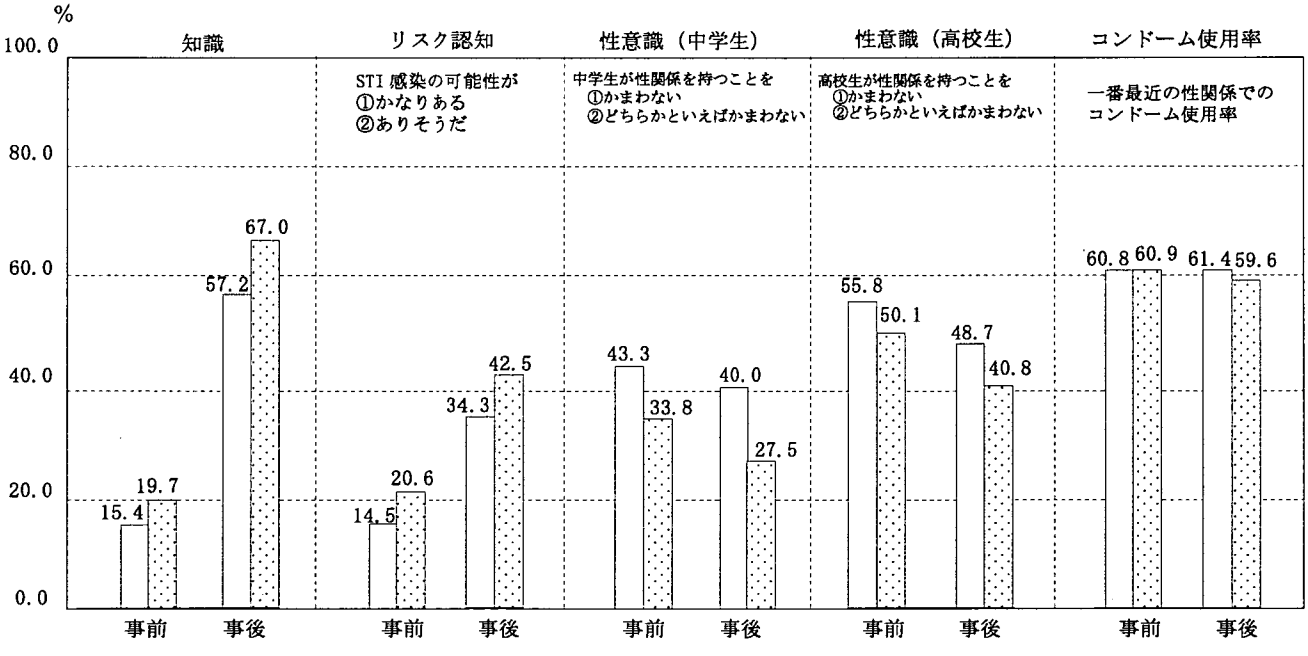
本プロジェクトで開発したモデル授業やその教材が、中学生・高校生の性行動を活発化させることなく、知識、性関係についての容認意識、リスク認知および予防行動（中学生）に顕著な教育効果を示すことが確認された。

中学３年生

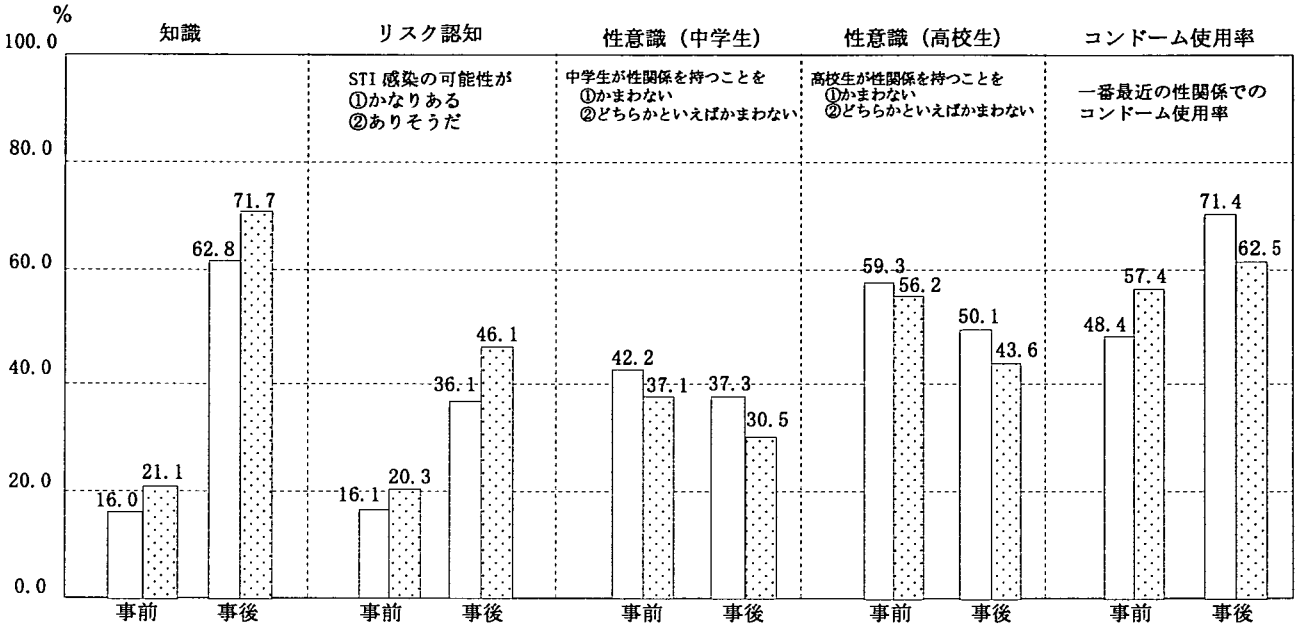
Ⅰ.非介入群



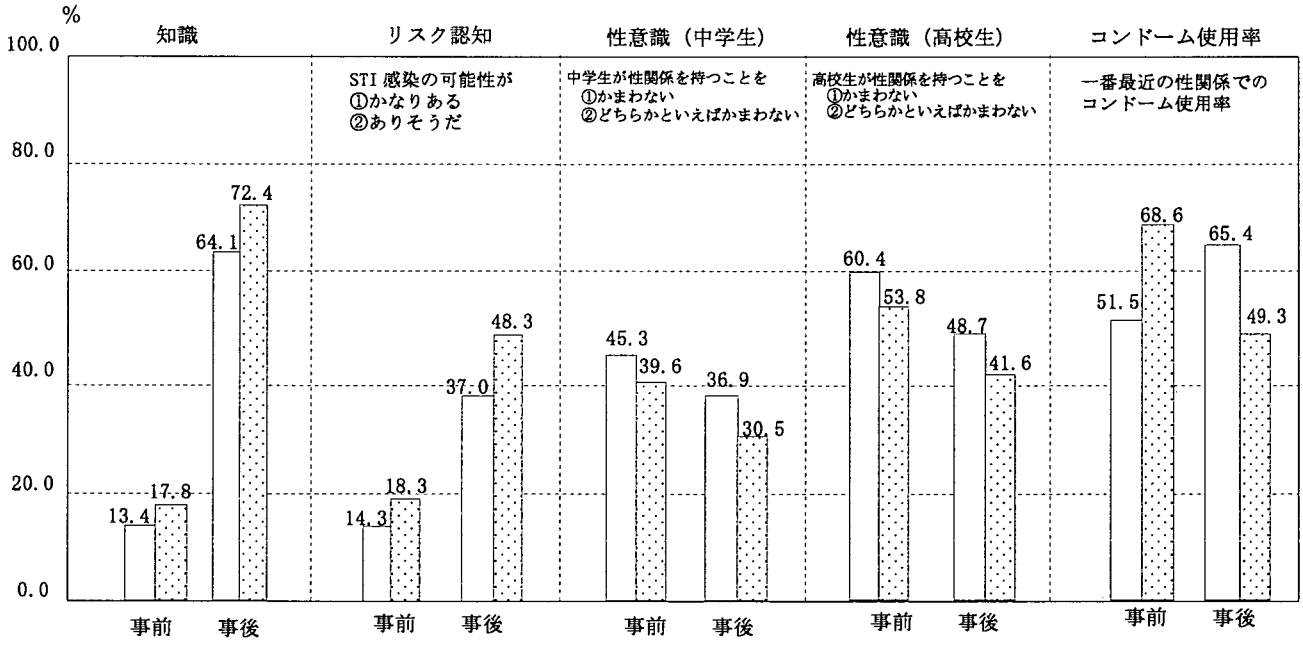
Ⅱ.不完全介入群



Ⅲ. 中間介入群

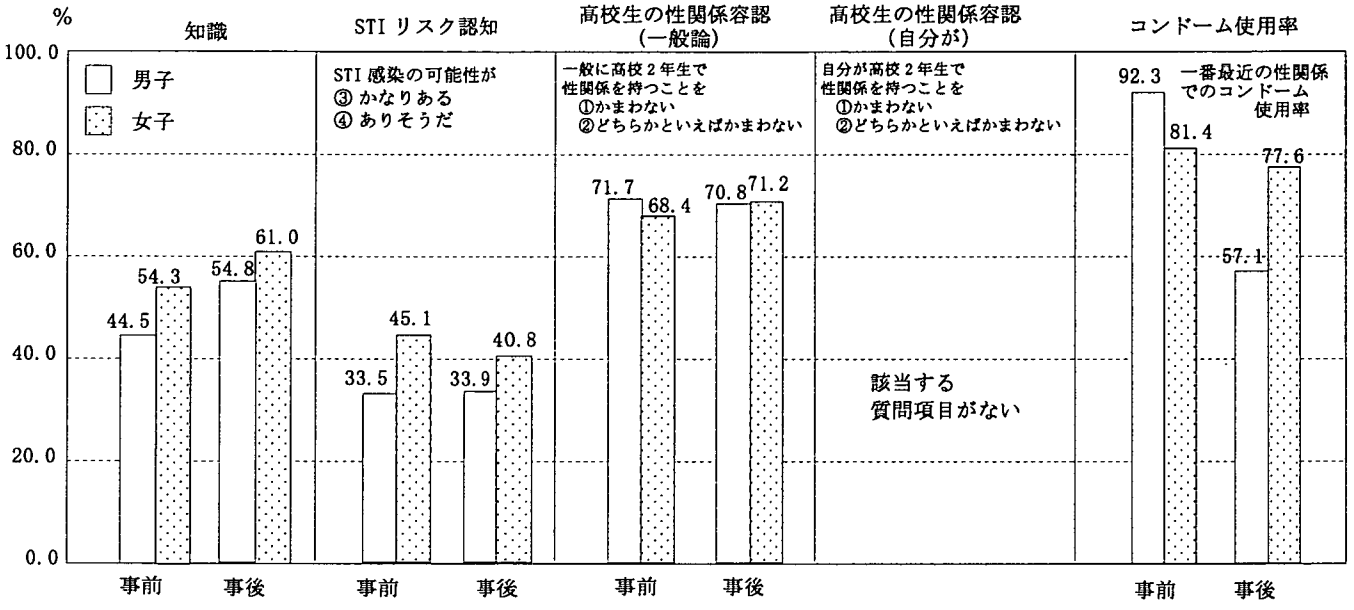


Ⅳ. フル介入群



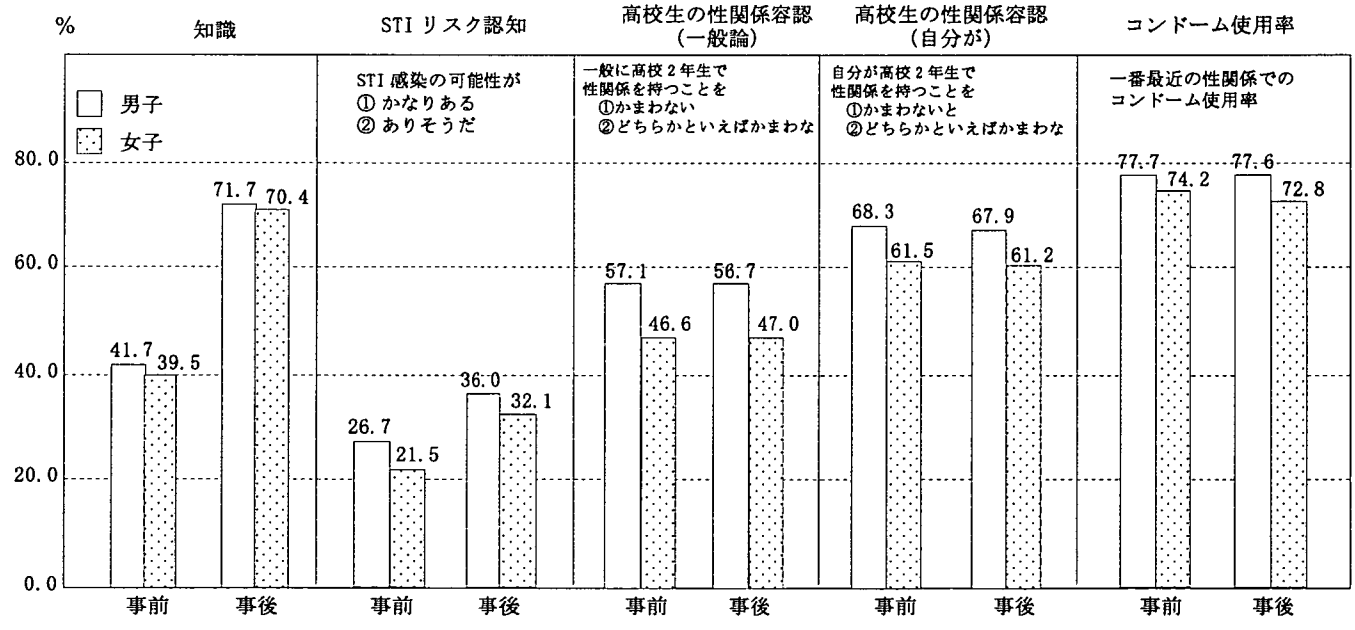
高校２年生

Ⅰ．非介入群



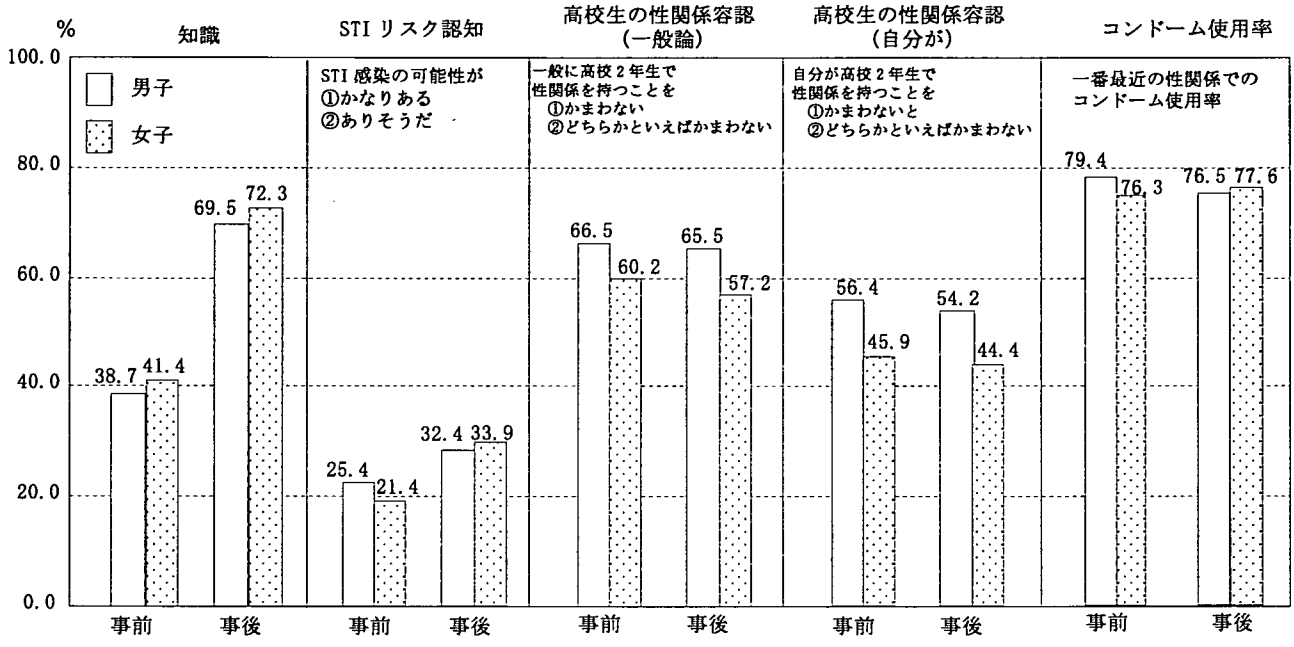
STI 関連知識：①クラミジアは性病②ＨＩＶとＳＴＩ相互作用③ＳＴＩは無症状のことがある④ＳＴＩは不妊の原因になりうる⑤地域中絶増加

Ⅱ．不完全介入群



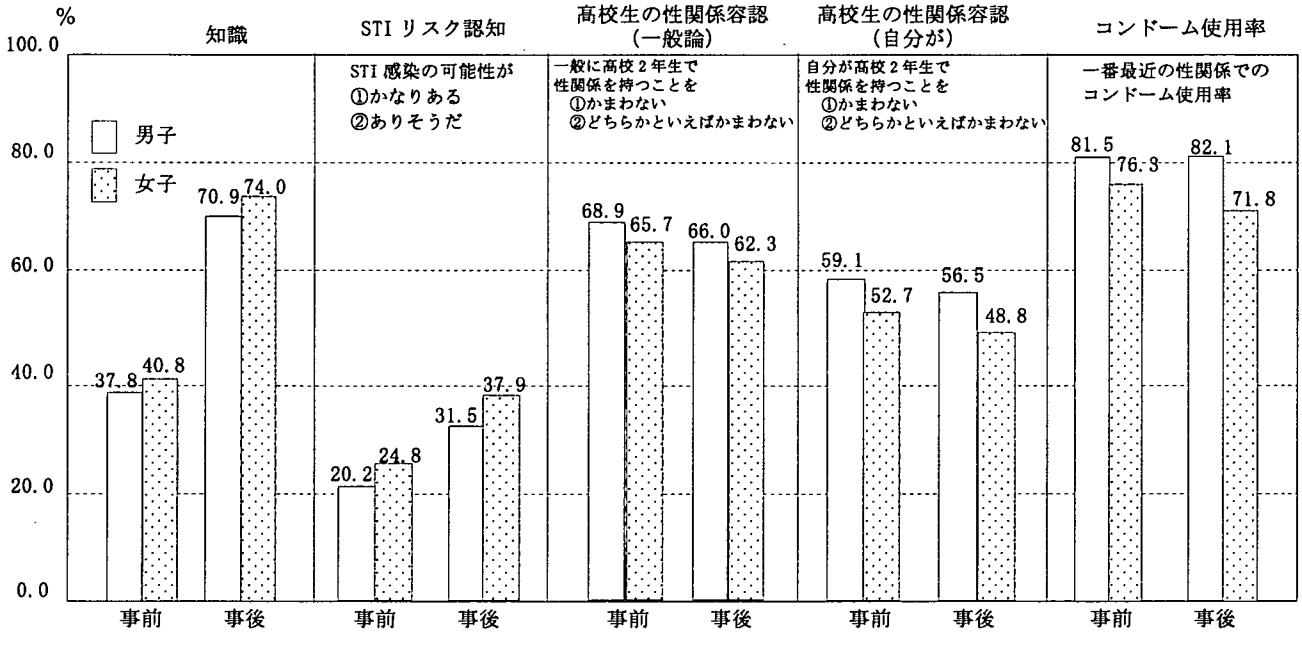
STI 関連知識：①クラミジアは性病②ＨＩＶとＳＴＩ相互作用③ＳＴＩは無症状のことがある④ＳＴＩは不妊の原因になりうる⑤地域中絶増加

Ⅲ.中間介入群



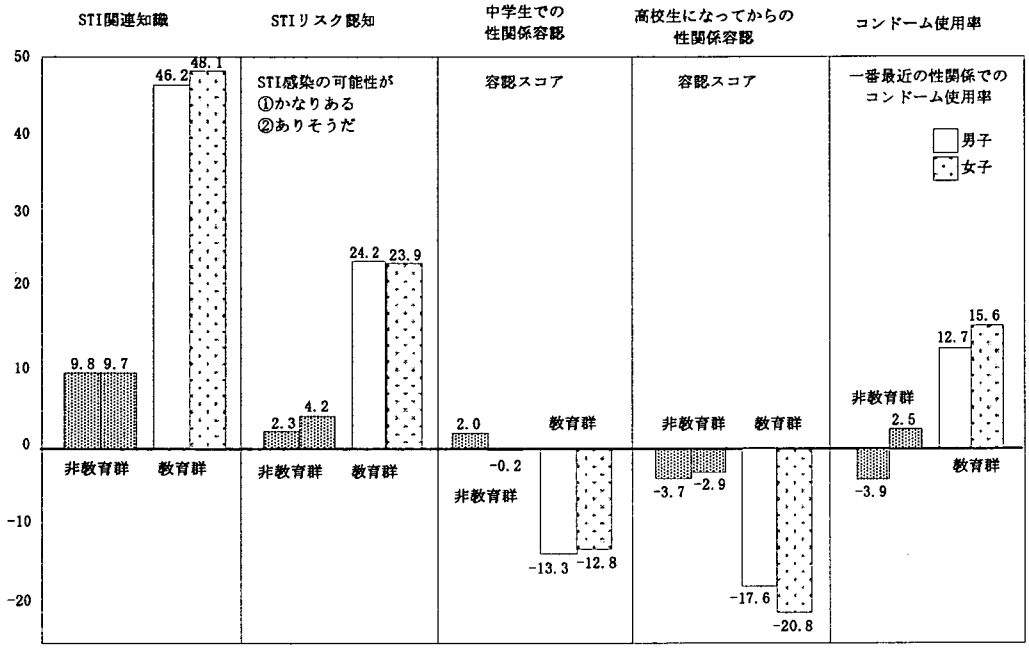
STI 関連知識：①クラミジアは性病②ＨＩＶとＳＴＩ相互作用③ＳＴＩは無症状のことがある④ＳＴＩは不妊の原因になりうる⑤地域中絶増加

Ⅳ. フル介入群



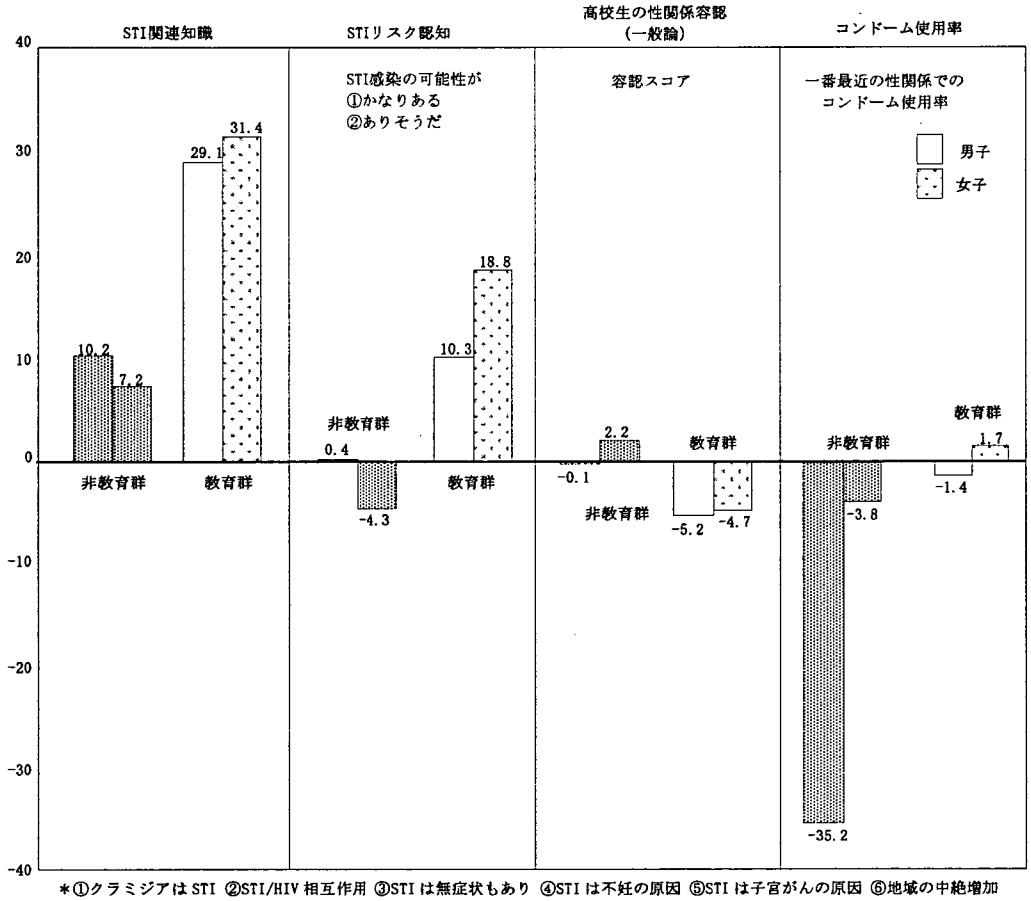
STI 関連知識：①クラミジアは性病②ＨＩＶとＳＴＩ相互作用③ＳＴＩは無症状のことがある④ＳＴＩは不妊の原因になりうる⑤地域中絶増加

予防教育のまとめ：中学３年生
非教育群 VS 教育群



＊①クラミジアは STI ②STI/HIV 相互作用 ③STI は無症状もあり ④STI は不妊の原因 ⑤STI は子宮がんの原因 ⑥地域の中絶増加

予防教育のまとめ：高校２年生
非教育群 VS 教育群



＊①クラミジアは STI ②STI/HIV 相互作用 ③STI は無症状もあり ④STI は不妊の原因 ⑤STI は子宮がんの原因 ⑥地域の中絶増加

2. 学内における予防介入研究

1-2. 個別指導による保健室での予防介入研究(保健室プロジェクト)

【研究の背景】

本研究班の集団教育プロジェクトにより、全国の中学校/高校における STI/HIV 予防の集団教育体制はほぼ確立された。しかしながら、クラスの集団教育だけでは、情報が不足する高ニーズへの個別対応が喫緊の課題となっている。これまでの調査より、これらの高ニーズ層のかなりの割合が保健室を来室する機会が多いため、彼らに対する保健室での個別指導の可能性が示唆された。そこで、保健室における個別指導による予防介入研究として保健室プロジェクトを実施する。そのため、2006 年度(昨年)に全国の保健室実態調査を行った(調査結果の詳細は 2006 年度本研究班報告書参照)。その形成調査結果を基に、本年度より保健室における高ニーズ層の生徒に対する個別指導を行う保健室プロジェクトを開始した。

【 実施目的 】

WYSH 教育モデルのうち、高ニーズ層の若者に対する個別支援体制確立のために、保健室における取り組みのモデル開発を行い、保健室における個別支援体制を構築し、その取り組みの科学的効果評価を行う。

【 対象 】

WYSH 集団教育プロジェクト参加校のうち、保健室プロジェクト参加を希望した学校(注:WYSH 集団教育プロジェクト参加校は、全国の文部科学省性教育実践調査研究指定地域の指定校、及びその他個別の希望校から、参加校を募集。募集は文部科学省スポーツ青年局を通して実施)

【 参加校 】

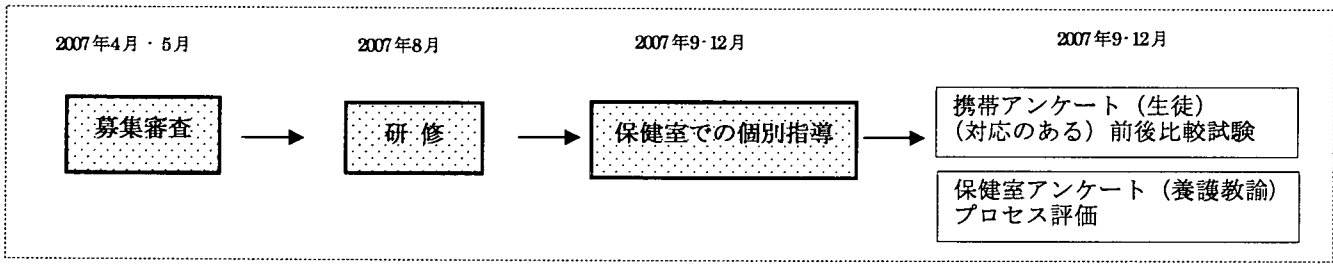
(1) 参加自治体数: 31 府県

1 青森県、2 山形県、3 岩手県、4 宮城県、5 福島県、6 埼玉県、7 神奈川県、8 新潟、9 石川県、10 富山県、11 福井県、12 群馬県、13 長野県、14 岐阜県、15 静岡県、16 愛知県、17 和歌山県、18 滋賀県、19 京都府、20 大阪府、21 兵庫県、22 奈良県、23 岡山県、24 鳥取県、25 山口県、26 徳島県、27 香川県、28 愛媛県、29 高知県、30 宮崎県、31 沖縄県

(2) 参加校数:65 校(中学校 35 校、高等学校 30 校)

【 保健室プロジェクトの実施プロセス】(図 1)

図 1. 保健室プロジェクトの実施プロセス



【研修会の内容 】

目的:参加中学校・高等学校の養護教諭が、STI/HIV の流行状況や治療について最新の状況を習得し、かつ WYSH プロジェクトの保健室個別指導モデルを各校の保健室来室生徒の行動段階等の実態に適した内容に修正し、実施できるように支援すること。(＊中学校用と高等学校用は別々に実施)

実施日：2007 年 8 月
実施場所：京都

対象：参加校の養護教諭および参加校の所在地の教育委員会指導主事。

研修会の特徴：
① 保健室プロジェクト参加校は集団教育プロジェクト参加が必須であるため、研修会以前に事前調査を終え、参加校は自分の学校の生徒の調査結果を数値として把握し、全国平均との違いを知った上で、研修を受ける。
② WYSH モデルで開発した独自補助資材（各種予防サイト紹介カード、アニマルダイアリー）を無料提供。

研修会の構成：(中学校/高校各半日コース)
●研修会の流れ
① 性教育における保健室の位置づけの確認
② 昨年度の調査結果からみた保健室の現状（多忙な業務体制、相談業務の問題点）
③ 時間的な制約の中で、いかに予防情報を来室者に伝えるか？
④ WYSH オリジナル予防サイト（3 種類）の内容紹介と紹介カード使用例の提示
⑤ 上記啓発資材の提供により、相談時間が確保できた場合の相談にのり方
（話の聴き方講座）：話を聞く達人になろう（ワークショップ）
- 会話のきっかけ作り
- 質問のしかた
- 聞き方のポイント

＊個別相談では対象となる生徒の行動段階にあわせた対処方法をとることの確認
⑥ 何も話さないが問題を抱えていそうな来室者への対応例（ワークショップ）
- アニマルシート（作業）を用いた、対応例の体験演習。

⑦ 保健室の相談で対応に困った例について全体討議（Q＆A）
- 他校の養護教諭との意見交換

【 個別指導内容の基本コンセプト 】

(1) 行動段階を考慮した対応：来室した生徒の発達段階、行動段階（図 2）に応じた対応をとる。

(2) 個別指導の基本的内容

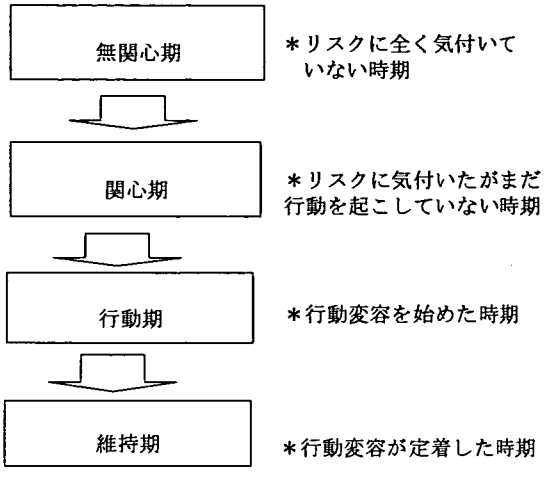
① ***性関係を急がないこと***（丁寧な時間をかけた人間関係の構築）→（未経験者）初交年齢を遅らせる、（経験者）パートナー数を減らす。現在の交際を今一度振り返り、短期間で相手の変わる交際を減らす。

② ***自分にもリスクがあること***

（上記①②は集団教育の内容と同じ）

ただし個別指導では、必要に応じて、予防方法の具体例も説明

図2. 行動段階



(3)個別指導における追加内容:保健室来室者は行動段階の無関心期から関心期の生徒まで多様性がある。

①行動段階の関心期前期の生徒：予防行動をとった場合のベネフィット感の向上を促すような働きかけを行う。

②行動段階の関心期後期の生徒：予防行動のコスト感を減らしたり、自己効力感を向上させるアプローチをとる。

③全体のベースとして、対象となる生徒の長所を見つけるようにつとめ、生徒の自尊感情を向上させるように支援する。

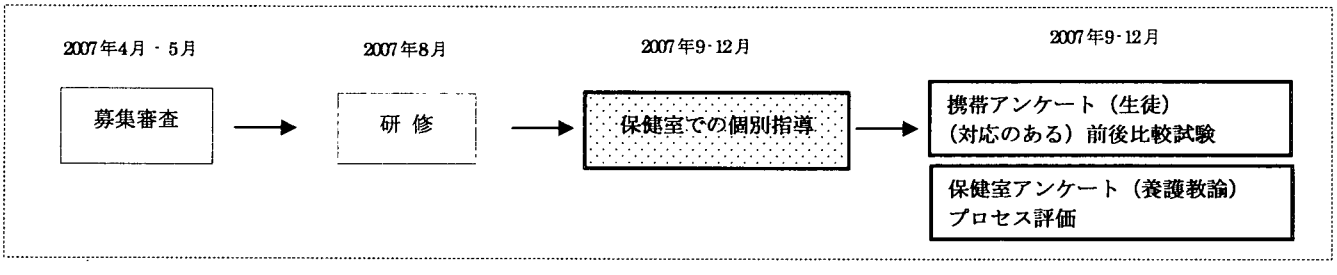
【 保健室プロジェクトの流れと評価デザイン 】(図 3)

参加校は、8 月の研修会に参加し、2 学期中に保健室来室者に対し、保健室プロジェクトの取り組みを行う。

① 生徒への直接的な評価：（対応のある）前後比較試験（携帯アンケート）

② 養護教諭への質問紙調査：プロセス評価（質的評価）

図 3. 保健室プロジェクトの評価デザイン



■保健室アンケート

【対象】保健室プロジェクト参加校の養護教諭（中学校 35 校、高校 30 校）

【方法】郵送による質問紙調査

【質問項目】９ページ。①２学期中の保健室の来室者平均/日、相談者平均/日、②予防サイト利用状況および感想（自由記載）、③「恋愛危険度チェック」カードの使用状況および感想（自由記載）、④Questioning youth 向けカードの使用状況及び感想（自由記載）、⑤アニマルダイアリー使用状況および感想（自由記載）、⑥保健室プロジェクトへの全体的な感想（自由記載）（資料 6）

【回収状況】中学校 34 校/35 校（97.1%）、高校 29 校/30 校（96.7%）

【アンケート結果】

■保健室利用状況の概要

①一日の来室者数：

保健室プロジェクトの参加校の来室者数の一日平均は中学校が 15.8 人で高校が 14.6 人であった。

②一日の相談者数：

相談者数の一日平均は、中学校 3.6 人、高校 3.0 人で、そのうち性に関する相談者の一日平均は中学校 0.4 人、高校生は 1.1 人であった。

【 評価 】

(1) 予防サイトカード

昨年度の全国保健室調査の結果より、養護教諭が極めて多忙な状況におかれていることが明らかとなった。相談業務うまくいかない最も大きな理由は時間がとれないという理由とプライバシーを守れる空間がないという、時間的空間的制約であった。空間的な制約に関しては我々が関与できる範疇を超えることから、時間的制約の中での相談活動実施を考慮し、本グループでは、生徒自身で予防情報にアクセスできるように、生徒向けの予防サイト（携帯電話、ＰＣ両方からアクセス可能）を開発した。

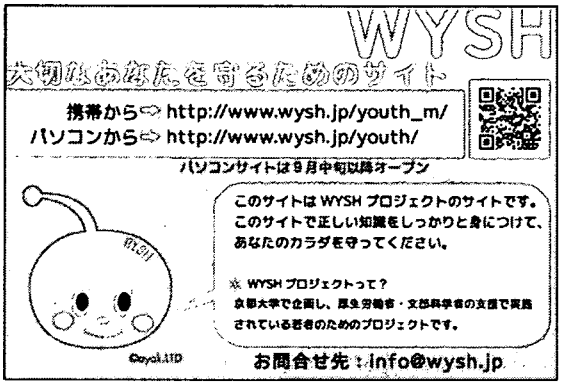


図 4. 予防サイト/カード

■予防サイトカード（プロセス評価）

①配布の有無：プロジェクト参加校のうち「予防サイトカード」を生徒に配布していたのは、中学校 38.2%、高校 82.8%で高校ではほとんど配布されていた。

②配布の方法：中学校では、「保健室での手渡し」75.0%、「保健室で自由にとれる」25.0%とほとんどが保健室内での情報提供の際に利用されていた。一方、高校では、「授業中に配布した」が 62.5%と最も多く、同時に保健室での利用も併用するという形がとられていた。

③利用者の属性の特徴：性別では、中学校では、圧倒的に女子生徒が多く、高校では、女子生徒と男女両方と利用層が拡大していた。利用した学年は、中学 3 年生と、高校 2 年生が最も多かった。

④予防サイト利用と先生の説明のどちらが希望（先生の意見）：生徒はサイト利用と先生の説明のどちらを希望したかを先生に尋ねた。中学校では、どちらでもないが最も多く、次が先生から話を聞きたいの順であった。高校では、先生から話を聞きたい生徒が最も多いことが示された。

■ＷＹＳＨ予防サイト特徴および開発目的（期待される効果）

①主要な対象は生徒（低年齢層）であること：生徒を主要な対象としたため、一般向けサイトとは異なり、性行為の未経験者や中学生なども多数アクセスする可能性があるため、その点を考慮し、使用する用語が利用者に抵抗感を与えないように配慮した。

②生徒自身がアクセス：それによって、養護教諭の情報提供に割く時間が短縮され、相談の時間が確保できる。

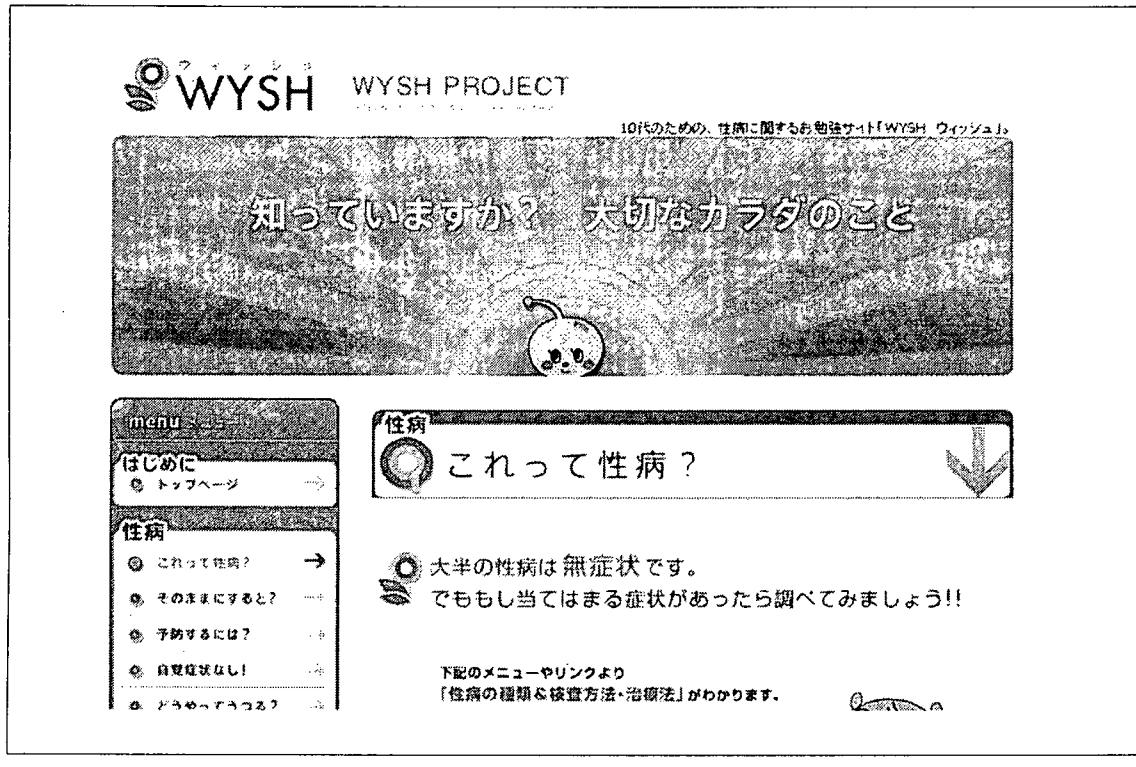
③相談のきっかけ：生徒自身がアクセスするが、その結果を尋ねる、あるいは報告することを相談開始のきっかけに利用できる。

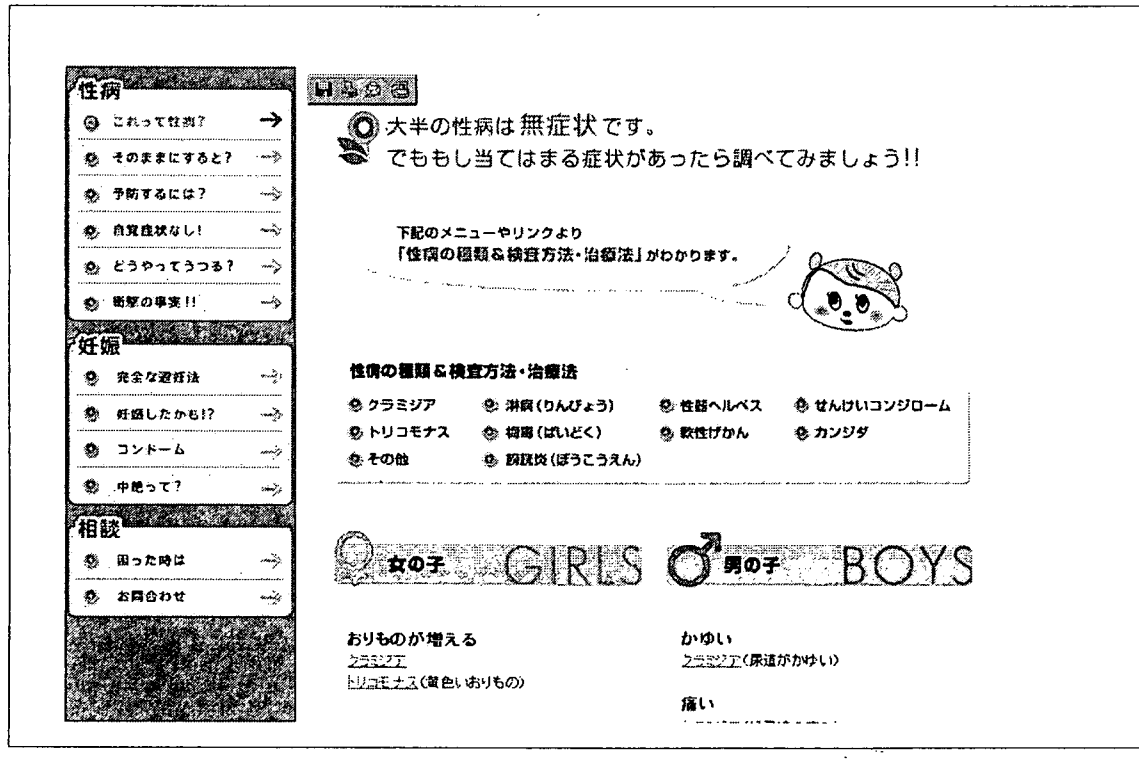
④主要項目：性感染症関連（①STI の種類・症状・治療法、②合併症、③予防、④感染経路、⑤流行状況、⑥STI と HIV の相互作用）、妊娠関連（①各種避妊法、②妊娠、③コンドーム、④中絶）、Q&A

■予防サイトの閲覧状況（10 月～1 月）

2007 年 10 月から 2008 年 1 月までの予防サイトのアクセス状況は、携帯サイトのアクセス数は性感染症関連が 6, 141 件、妊娠関連が 4, 888 件で、ＰＣサイトのアクセス数は性感染症関連が 2, 987 件、妊娠関連が 1, 244 件で携帯サイトがＰＣサイトよりも多かった。携帯サイトとＰＣサイトのアクセス総数は、性感染症関連が 9, 128 件、妊娠関連が 6, 132 件で、どちらのサイトも性感染症関連の情報をより求めていることが示唆された。

図 5. 予防サイト（PC 画面）





■保健室アンケートの結果

保健室プロジェクトに参加した養護教諭に対し、質問紙調査を実施し、予防サイトカードを使用した感想（自由記載）を尋ねた。これらの自由記載の質的データの帰納的内容分析を行った。但し、時間的な制約から、本報告書には、初期段階の分析結果の概要のみを掲載するにとどめる。

(1)予防サイト/カードについて

◆先生の感想

保健室プロジェクト参加校のうち、今回の各種予防サイト/カードに関する感想は、中学校ではほとんどなかったため（携帯電話を学校で禁止しているためサイトの情報を生徒に提示していない）、今回は、高校の調査結果のみを報告する。保健室アンケートを返送した 29 校のうち、予防サイトについての自由記載のあった 22 校についての帰納的内容分析を実施した。

①個人でアクセスしやすい（36.4%）

回答例：個人でアクセスしやすいので、利用してもらえると思った。/携帯から個人で情報を仕入れることができると言うことが本校の生徒にあっており、興味を持った様子だった。/携帯電話から気軽にアクセスできるので、とても便利でよいと思った。/携帯電話からのアクセスと言う点で、生徒にとってはとても身近で手軽なのではと思いました。また、サイトも安心して紹介できる内容なので(SSL 通信という点もとても安心)抵抗なく生徒に勧めることが出来ました。/授業中に配布したので、”これから自分でできること”という意味付けの資料となりよかったと思う。/携帯サイトに接続が簡単なので使いやすいと思った。性に関する相談サイトだと直接表記されているのではないので、保護者の方も一緒に検索できると思った。(やはり保護者世代は性に関して真剣に悩んでいる子どもに対して倫理面だけで怒るようである。当然ですが）/生徒たちは携帯サイトを利用することに大変なれている。抵抗なく活用する。そして、興味関心が高いということが分かった。授業実践した 2 年生は特に関心が高かった。その他の学年においても、保健室に来室した際、カードのことを話して直接渡すほうが集団に配布するよりも効果的であると思った。このようなサイトは多種多様であるため、カードの出所と信頼のおけるものであるということを伝えることが必要であると思った。/QR コードがついているので、すぐにサイトにアクセスでき、使いやすい。

②手間がかかる（4.5%）

回答例：本校の生徒には少し手間のかかる作業のため、生徒の意欲が続かないと正直に感じました。

③カードがかわいい（18.2%）

回答例：保健室において、来室者に紹介してみたところ、カードがかわいいと言う点で手にとってみたり興味を持ってくれた。そこから勧めていくことができた/小さくかわいいカードなので、配布しやすかった。目立つ色調が効果的であった。/QR ｺｰﾄﾞがあると、すぐにアクセスするのだと見ていて感じましたまた、キャラクターがついていると女子生徒が喜んでいたように思いますこちらも QR コードとキャラクターに目がいくカードなので生徒にも抵抗なく配布できると思いました。/直接口に出して質問しにくいことや他の来室者がいて質問できないときにカードを利用することで生徒に性の指導をキチンとすることができた。

④予想外の反応だった（4.5%）

回答例：女子トイレに設置したカードは思ったよりはやくなくなり（２～３日)、予想以上に反応があったことに驚いた。

⑤反応が少なかった（9.1%）

回答例：カードを手にとってみる生徒は多くいたが持っていく生徒は少なかった。/生徒が上手く利用してくれれば役立つと思ったがカードに対する反応が考えていたほど感じられず何故と自分の中で不思議に思っている。

⑥授業の補足に有用（18.2%）

回答例：話の仕上げ（締めくくり）として渡すことが出来た。説明を補足してもらえるのが助かる。/予防教育授業が 1 コマしかとれないので、より詳しく知りたい生徒や疑問を質問できない生徒がカードにあるサイトを利用していたので、とても効果的にタイムリーにカードが使用できたので非